



太田 進一
(朋の会)

雪害対策・
有害獣被害状況と対策について

有害獣被害状況と対策について

問 シカ、イノシシの捕獲、殺処分に係る一頭当たりの費用の増額については。

答 安中市有害鳥獣捕獲隊は、県からの補助金である捕獲奨励金と市との契約により委託料が支払われています。安中地区は、イノシシ、ニホンジカが県からの奨励金四千円委託金六千円の合計一万円となっています。

松井田地区はサルの追い払い業務もあるため奨励金で支払われる額他に、一頭当たりの上乗せではなく、出勤時間に応じた委託料が支払われており、有害鳥獣対策協議会の設立がされれば、国の補助金を受けられ費用の増額となります。

有害獣の焼却施設の建設について

問 今年度はすでにイノシシ捕獲頭数六百頭、シカ二頭と増え続ける有害獣の焼却施設の建設を検討しているのか。

答 増え続ける捕獲量や捕獲隊員の高齢化等により埋却処分も厳しい状況になっています。

焼却施設の設置は、これらに対して極めて有効な対策と考えられています。しかしながら、焼却炉の購入と維持管理費用、またその設置場所などの観点からも非常に課題も多く十分な検討が必要であると考えています。

その他雪害対策、高齢者等の安否確認について他六点について質問しました。



捕獲されたイノシシ

経済建設常任委員会行政視察報告

経済建設常任委員会は、平成二十八年五月十八日から二十日までの日程で、北海道北斗市及び小樽市の行政視察を行いました。

北斗市は、平成十八年に二町が合併して誕生し、人口約四万七千人の都市です。平成二十八年三月北海道新幹線が開業し、新函館北斗駅が誕生することで観光に力を入れることになりました。駅舎には、市が整備した観光交流センターを合築し、新駅周辺区域への企業誘致や滞在型観光に向けた取り組みを推進しています。

新函館北斗駅及び周辺地区における集客力を高める施策や、立地環境の優位性を活かした企業立地による雇用創出と地域経済の活性化や市内の魅力を結び、交流人口が広がる基盤となる公共交通を充実する施策など、本市には解決すべき課題が沢山あり、安中発展のため多いに参考になりました。小樽市は、「小樽市観光基本計

画」を策定し、小樽観光を支える担い手の多様化・観光を軸にして小樽の産業構造の改革・多様な客層に対応できる受け皿づくりの推進・「選択と集中」を軸とした観光まちづくりを目指してあります。

その中で小樽観光の質的向上を重要視することが必要と考え、その意思表示として「観光都市宣言」を行い、観光まちづくりの実現に向けて市民と行政が一体となった観光振興推進体制を確立していく取り組みを学ばせて頂きました。



小樽市での研修風景